

	案1「ガイドツアー＋α」を実施	案2二次元バーコードの活用	案3エコポリスセンターで行っているフォトや絵のコンテストを赤塚植物園で展示する
企画概要	<p><b>既存のガイドツアーに</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「湧水スポット」</li><li>・「赤塚溜池公園の梅」</li><li>・区民ボランティアの活動（赤塚公園の植物モニタリングなど）</li></ul> <p><b>などの要素をプラスする。</b></p> <p>湧水スポット：不動産の滝、赤塚溜池公園、小豆沢公園、見次公園、志村城山公園。現地で二次元バーコードを設置して紹介することも可能。</p> <p>梅：梅で有名な赤塚溜池公園では、北部土木SCが梅の実を福祉園に提供して加工している。加工品（ジャムやクッキー）をガイドツアー参加者に試食してもらいながら、梅が多く植栽された経緯や歴史などを説明する。</p>	<p>二次元バーコードによる樹木、草花、区立公園（特色、遊具、だれでもトイレ）の紹介。赤塚植物園では既に二次元バーコードを活用しているが、違った視点で情報を発信する。<b>公園や植物に関する豆知識、季節ごとに見せる特色などを紹介。</b></p>	<p>A:エコポリスセンターで開催している「緑のカーテンアートコンテスト」や「緑のカーテンフォトキャンペーン」等をエコポリスセンターから展示物を借り赤塚植物園で展示する。</p> <p>B:赤塚植物園で開催していた「板橋のみどり2022」や「かぼちゃ展2022」等のコンテストの展示品をエコポリスセンターでも展示する。</p>
対象	区民、ガイドツアー常連参加者、湧水マニア	区民、区立公園来訪者	赤塚植物園やエコポリスセンターを利用する区民
ねらい・効果	<p>ガイドツアーによるみどりの紹介をしながら、赤塚地域に関する新たな情報を発信する場を提供する。これにより<b>みどりだけでなく、環境保全活動の周知と啓発活動に繋げる。</b></p>	<p>公園来訪時には見られない公園や植物に関する情報を発信し、「<b>次は〇月頃に来よう</b>」と思わせ、<b>公園の魅力を向上する</b>。「二次元バーコードを読み込む」ことは子供は食いつきやすいため、子供への情報発信も促す。将来的にスランブラリー等への応用が可能か検討する。</p>	<p>エコポリスセンターで行っているコンテストを赤塚植物園で展示することで、エコポリの事業について赤塚植物園に来訪した区民も知ることができる。又はエコポリで赤塚植物園のコンテストを展示する。展示作品を見ることで、<b>その施設に行ってみたい、そのコンテストに参加したい、緑化や環境保全などの事業について詳しく知りたい、などのきっかけにする。</b></p> <p>→赤塚植物園ではどんなコンテストができるか委員の方に意見をいただく。</p>
既存事業グリーンプランとの関連性	<ul style="list-style-type: none"><li>・Ⅰ4-3湧水の保全と活用（P60）</li><li>・Ⅲ7-1みどりとふれあう機会づくり（P74）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・Ⅲ7-6みどりの情報発信（P80）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・Ⅲ7-2みどりについて学ぶ機会づくり（P75）</li></ul> <p>赤塚植物園の緑の講習会・展示会</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・Ⅲ7-6みどりの情報発信（P80）</li></ul>
課題（実施するうえで妨げとなるもの）	<ul style="list-style-type: none"><li>①紹介内容や場所の検討</li><li>②緑のガイドツアー以外の紹介を誰がするか</li><li>③緑のガイドツアー常連参加者以外をどうやって引き込むか</li><li>④若者世代の参加をどうやって引き込むか</li><li>⑤移動手段をどうするか（バス借り上げ、徒歩など）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>①二次元バーコードのHP作成。（既存のHPをバーコード化は容易）</li><li>②二次元バーコード設置後の管理（位置の把握、情報内容の更新、亡失時の対応方法）</li><li>③二次元バーコード設置方法（立て看板、既存掲示板、樹に巻きつける等）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>①エコポリスセンターとの調整</li><li>②展示物搬入などの調整</li><li>③展示作品を交換するだけでなく、エコポリで展示作品を見て赤植へ行きたい（又は赤植からエコポリへ行きたい）という仕掛けづくりが必要</li></ul>
想定費用（予算）	<ul style="list-style-type: none"><li>・バス借り上げ費用</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・樹名板費用（樹名板を設置する場合）</li><li>・アプリ作成・運営費（スタンプラリー実施する場合）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・印刷費（パネル作成、周知チラシ等）</li></ul>
備考	環境政策課、福祉園（障がい政策課・サービス課）、ボランティア団体と連携	<ul style="list-style-type: none"><li>・北部土木SCと連携（赤塚植物園以外の公園）</li><li>・二次元バーコード化し、印刷や展示する必要あり</li></ul>	
状況写真			



	案4 赤塚地域にポット苗の配布	案5 フォトスポットを作る	案6 赤塚植物園周辺の見どころマップを作る
企画概要	赤塚植物園に生育している樹木・草花や、野菜の種からポット苗を作って、それを希望する近隣住民に配布し、自宅の庭などで育ててもらう。その後ポット苗の生育をテーマにしたフォトコンテストを行うことや、街歩きの中で自慢のお庭やガーデニングを見ることができるオープンガーデンの実施にもつなげていく。  長期的には、緑化を支援する公益的な団体による緑化プランナー制度（界わい緑化推進プログラム）の導入を視野に、街なかの緑化推進を図っていく。	赤塚植物園内に、試験的に一か所フォトスポットを作る。（その後、農業園にも一か所増やしていければと考えている。）  A：ベニヤ板等を使用してフォトスポットを作る。（観光地によくあるような、板から顔が出せるようなパネル。原則、動かさずに使用する。）  B：持ち運びのできるフォトパネルを作成する。（インスタグラムの投稿画面を、切り抜きにしてパネルに印刷し、自分で持ち運びながら使用ができるフォトパネルを想定。その他、ハート型のスティック付きパネルを作成し、撮影する際に自由に使用できるスティック付のパネルを作る。）  C：園内に風鈴や風車、色とりどりのビニール傘などを設置し、フォトジェニックな（写真映える）スポットを作る。	A:赤塚植物園周辺の見どころマップを作成。 <b>来訪者におすすめスポットを加えてもらいコアなマップを作り上げていく</b> のも手。R3年度にみどりと公園課で検討した周辺マップ（未完）の活用も視野に入れる。グリーンフェスタでお披露目出来ると効果が高いかもしれない。 B:くらしと観光課の「板橋観光マップ」を赤塚植物園に設置又は展示する。
対象	赤塚植物園近隣住民、希望する区民	赤塚植物園を利用する区民	区民、赤塚植物園来訪者、グリーンフェスタ関係者（主催者側、参加者側どちらも）
ねらい・効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・街なかの緑化推進、みどりを育てていく機運の醸成</li><li>・地域を挙げてみどりを増やしていく意識の醸成</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・赤塚植物園に来訪した区民が思い出を残せるようなスポットを作る。</li><li>・フォトスポットを作成することによって、赤塚植物園のさらなる活性化を図る。</li><li>・区民のフォトスポットの活用によって、SNSを通した赤塚植物園のPRを行っていくことが理想と考える。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・赤塚植物園来訪者や地域住民が知らない、地域の魅力を発掘する・育てるきっかけにする。赤塚植物園以外にも湧水、赤塚溜池公園、飲食店などを知ってもらい来訪してもらう。</li><li>・「板橋観光マップ」で区がお勧めする王道スポットを紹介し、興味を持ってもらう</li></ul>
既存事業 グリーンプランとの関連性	Ⅱ5-1 街なかの緑化推進（P64） Ⅲ7-1 みどりの街歩きの魅力向上（P75） Ⅲ7-3 みどりを楽しむ機運の醸成（P76）	なし	<ul style="list-style-type: none"><li>・Ⅲ7-1みどりとふれあう機会づくり（P74）</li><li>・Ⅲ7-2みどりについて学ぶ機会づくり（P75）</li></ul>
課題 （実施するうえで妨げとなるもの）	①地域のまきこみ、協力要請方法 ②何の苗を育てるか ③区（赤塚植物園など）の支援をどのようにしていくか ④「もう育てられない」「枯れた!」といった声への対応	①フォトスポットをどのように作成するのか。（素材・費用・設置時期・製作時間・ターゲット層） ②景観や公園に調和したデザイン・意匠	①マップ作りの方向性について詳細を検討、既存マップとの差別化 ②来訪者によるおすすめスポットの追加方法（電子、手書き） ③案の出たマップをどうやって具現化するか（印刷、HP、展示など） ④掲載場所によっては許可が必要
想定費用 （予算）	苗づくりに必要な費用（種、ポット、管理人件費）	製作費（材料費）	マップ作製費（印刷費、電子マップ作製費）
備考			くらしと観光課から「板橋観光マップ」を何部か受領
状況写真			

	案7 活動団体の活動紹介場所、研修・交流場所として使う （構成員が行っている事業を、現場実施で紹介する。）		
企画概要	<p>区民がみどりに関して行いたいことを支援することを趣旨に、赤塚植物園の場所・施設貸しを積極的に行う。</p> <p>A:具体的に検討するために、推進会議構成員が行っている事業をウェルカムセンターで紹介する展示や、研修・交流場所として活用するとしたとき、赤植でどのように使いたいか、どんな支援が欲しいかを構成員に意見をもらう。 （例：FOE JAPAN 宇津木の森 里山再生プロジェクト 篠原委員が行っている事業（「森の産物をどう活かすか？」を模索しながら里山の再生・保全作業を行っている。草刈り、伐採、落ち葉かきなど保全作業から、腐葉土づくり、きのこ栽培、タケノコ掘りなど里山利用まで、季節に合わせた森の手入れをしている。）を紹介し、赤植でそのような活動が何かできないかというのを模索する。</p> <p>B:エコなライフスタイルの区民を講師として発掘又は募集する。そのライフスタイルに興味のある区民らに、赤塚植物園で講習会を実施する場づくりを模索する。（例：自宅の樹々を用いた手作り正月飾り、廃棄食材を堆肥にし家庭菜園に活かしている）</p>		
対象	<p>・緑のまちづくりや自然地の保全に関する活動をするグループ等</p> <p>・エコなライフスタイルの区民</p>		
ねらい・効果	活動団体と区民との交流、みどりに関する活動の啓発 新たな担い手の育成		
既存事業 グリーンプラン との関連性	III 7-4 区民提案による企画支援制度の検討（P.78）		
課題 （実施するうえで妨げとなるもの）	<p>①区がどこまで支援できるか</p> <p>②エコポリスセンターとの既存事業との差別化</p> <p>③どのような企画、団体を支援対象とするか</p> <p>④活動希望日が集中した場合、どのように団体を選別していくか</p> <p>⑤情報周知の方法</p> <p>⑥施設貸出を有償化するか検討が必要</p> <p>⑦区民講師の発掘又は募集の方法</p>		
想定費用 （予算）	なし		
備考	緑と公園の推進会議構成委員にまず依頼する		
状況写真			